令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人鹿児島大学

## １ 全体評価

鹿児島大学は、地域とともに社会の発展に貢献する知の拠点として、「進取の気風にあふれる総合大学」を目指している。第３期中期目標期間においては、南九州及び南西諸島域の「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化し、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を有する人材を育成するとともに、18歳人口減少問題やグローバル化を視野に入れ、「進取の気風にあふれる総合大学」に相応しい大学改革を実施するため、グローバルな視点を有する地域人材育成の強化等を基本目標に掲げている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）による認証を取得するとともに、「産学・地域共創センター」を中心に、持続性のある地域イノベーション･エコシステムの構築を目指す体制を整備するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

**（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）**

第３期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

○　地元就職支援について、県内８大学等による共同事業として鹿児島県の有力な産業分野である「食と観光」関連産業分野を含む企業への「地元企業よかとこ発見バスツアー」（４コース）（114名参加）を実施している。また、地元企業に特化した各種イベント（県内企業延べ141社・参加学生延べ1,721名）を実施するとともに、留学生の地元就職支援として、鹿児島商工会議所と連携し、留学生と地元企業との意見交換会を開催している。（ユニット「地域人材育成及び地域連携の推進」に関する取組）

○　ヒトレトロウイルス学共同研究センター（鹿児島大学の「難治ウイルス病態制御研究センター」と熊本大学の「エイズ学研究センター」を統合・再編し、平成31年４月１日に両大学が合同で新たに設置）において、鹿児島大学と熊本大学間で異なる規則等について協議し、共通の規則の制定や評価基準の共通化を実施するとともに、大型機器の共同利用システムを開発している。また、人事面に関して、両大学間のクロスアポイントメントを４名の教員で実施しているほか、トランスレーショナルリサーチ部門の特任教授及び特任准教授を決定している。（ユニット「大学の強み・特色を活かした学術研究の推進」に関する取組）

## 2 項目別評価

| ＜評価結果の概況＞ | 特　筆 | 一定の注目事項 | 順　調 | おおむね順調 | 遅れ | 重大な改善事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| （１）業務運営の改善及び効率化 | | | ○ | | | |
| （２）財務内容の改善 | | | ○ | | | |
| （３）自己点検・評価及び情報提供 | | | ○ | | | |
| （４）その他業務運営 | | | ○ | | | |

### Ⅰ．業務運営・財務内容等の状況

#### （１）業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善　②教育研究組織の見直し　③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
（理由）　年度計画の記載16事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

**○ 新合同センター「ヒトレトロウイルス学共同研究センター」の設置による研究教育の拠点化**

鹿児島大学の「難治ウイルス病態制御研究センター」と熊本大学の「エイズ学研究センター」を再編・統合し、平成31年４月１日に難治性ウイルス感染症の克服を目指す「ヒトレトロウイルス学共同研究センター」を設置し、研究教育の拠点化を図っている。またヒトレトロウイルス学共同研究センターキックオフシンポジウムを開催し、国内外からの著名な研究者による特別講演と両キャンパスの研究紹介を実施している。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について**課題**がある。

**○ 入学者選抜における出題ミス**

平成31年度大学院入試及び令和２年度医学部推薦入試における出題ミスが発生したことにより追加合格の措置を実施していることから、チェック体制の見直し等、再発防止に向けた組織的な取組を実施することが望まれる。

## （２）財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加　②経費の抑制　③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
（理由）　年度計画の記載11事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## （３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実　②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
（理由）　年度計画の記載２事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

**○ アジア初となる欧州国際水準の獣医師育成教育機関に認定**

鹿児島大学共同獣医学部及び山口大学共同獣医学部は、獣医学教育の欧州国際認証である欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）認証を令和元年12月にアジア地域として初めて取得し、国際的にボーダーレス化が進んでいる疾病の制御や食の安全に関わる獣医師の養成機関として、アジアにおける獣医学教育改革を牽引していくこととしている。

## （４）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等　②安全管理　③法令遵守

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
（理由）　年度計画の記載９事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## Ⅱ．教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

**○ 大学院における英語による授業のみで修了可能なコースの開設**

研究内容に関心を持ちつつも日本語力に課題があることから留学が難しい外国人の入学を促す効果及び自身の研究能力のみならず英語力も向上させたいと考える日本人学生にとって留学生と協働で学ぶ機会の確保を目的として、大学院において英語による授業のみで修了可能なコースを開設している。令和元年度は６つのコースを開設し、９か国から16名が入学している。

**附属病院関係**

**（教育・研究面）**

**○ 看護職の地域支援**

行政・看護協会との連携による助産師の偏在化緩和・資質向上を目的とした「助産師出向支援事業」へ参加し、令和元年度は、新たに一定期間地域の訪問看護ステーションへ出向する「訪問看護理解・促進事業」へ３か月間看護師を派遣するなど、行政や市町村と連携し、地域のニーズに応じた支援を実施している。

**○ 国際水準の卓越した研究の推進**

AMED革新がん事業として、がんへの遺伝子・ウイルス治療薬として独自開発したSurv.m-CRA-1について、鹿児島大学病院で骨軟部腫瘍に対してFirst-In-Human（世界初ヒト投与）医師主導治験を実施・終了するなど臨床研究の取組を行っている。

**（診療面）**

**○ がん医療に対する取組の推進**

「かごしま県がんサポートブック」による県内のがん治療に関する情報提供や啓発活動、鹿児島県初の「緩和ケア提供体制に関するピアレビュー」の実施による緩和ケアの質向上、がん遺伝子診断外来を開設し網羅的がん遺伝子検査を開始するなどの取組により、がんゲノム医療拠点病院に指定され、がん医療に関する取組を推進している。

**（運営面）**

**○ 鹿児島大学病院基金の設立**

更なる先進的医療の推進、優れた医療人の育成、地域医療への積極的な貢献等、県内唯一の特定機能病院及び国立大学病院としての使命を果たしていくため、令和元年10月に「鹿児島大学病院基金」を設立している。